

令和元年度行政評価（平成30年度対象）シート

政策6 豊かなところからだをはぐくむまちをつくる

施策601 生涯学習の充実

主担当課：生涯学習課

○施策の目指す姿

生涯学習に関する講座と情報発信が充実し、学びを通じて広く市民によるこびや生きがいがはぐくまれています。

○施策の展開

- 生涯学習講座の開催
- サタデーキッズクラブの開催
- 生涯学習を担う地域人材の育成・活用
- 平和学習の機会提供
- 公民館等の管理・運営
- 利用しやすい図書館づくり

○令和元年度 事務事業評価実施事業（平成30年度対象）

- 生涯学習推進費
- 夢広場はるひ費

I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

○施策の関連データ

図書館来館者数（人）※清須市調べ	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	178,223	175,800	177,540	189,379	194,403
生涯学習講座の延べ参加者数（スポーツ教室を除く、人）※清須市調べ	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	1,633	1,610	1,650	1,593	1,750

○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 生涯学習講座については、講座の終了後等にアンケートを実施し、市民ニーズの把握に努めており、近年は趣味（音楽、美術、華道、舞踊、書道等）、教養（文学、歴史、科学、語学等）社会問題（社会・時事・国際・環境問題等）、家庭（料理、洋裁、和裁、編み物等）など、市民の関心が多様化し、市民ニーズも多岐に渡っている。
- 図書館の来館者数は、蔵書構成が整いつつあることに加え、企画の充実などにより前年度より増加している。利用が増えることにより、これまでの業務の見直しや、土・日・祝日のイベント時の駐車場の不足などの問題が出てきている。

II 達成度指標の状況

※達成見込については、目標値を上回る見込…◎、目標値を達成見込…○、目標値の達成が難しい見込…▲、現状値を把握していない見込…―として

達成度指標	基準値	前期計画目標値	実績値			目標値の達成見込
			平成28年度	平成29年度	平成30年度	
市民満足度調査における満足度	26.1% (平成28年度)	↑ (平成30年度)	26.1% (平成28年度)	—	24.6% (平成30年度)	▲
生涯学習講座の参加者満足度	93.0% (平成27年度)	95.0% (令和元年度)	88.5% (平成28年度)	96.3% (平成29年度)	97.9% (平成30年度)	○
図書館の来館者数	175,800人 (平成27年度)	200,000人 (令和元年度)	177,540人 (平成28年度)	189,379人 (平成29年度)	194,403人 (平成30年度)	○

達成状況の分析	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習講座の受講者へのアンケート調査では、全ての講座において講師が丁寧に教え、対応したため、受講生からは大変良かったとの声が多かった。また、自分の意思で参加した受講者が86%を占めるなど生涯学習に対する意識は高い水準を保っている。今後も講師との打合せを密に行い、アンケート調査を参考に受講者にとって満足のいく講座となるよう努めていく。 図書館の来館者数は前年比約2.7%、貸出冊数は約7.1%増加しており、着実な伸びとなっている。蔵書構成が整いつつあることに加え、企画の充実、新聞やテレビ番組などのマスメディアを通じ取材を受けたことにより図書館の知名度が上がったこと、ブックスタートなどの地道な図書館PRを実施したことによる、特に若い世代の来館者の増加が要因と考えられる。また、図書館への来館が困難と認められる身体障害者の方の図書郵送サービス（平成28年度開始）についても実績があった。
---------	---

III 平成30年度の主な取組結果

- 【生涯学習推進費】
 - 清須キッズアートラボなど、13教室・16コースによるサタデーキッズクラブを開催（30回、延べ参加者710人）。
 - 23講座（教養8講座、趣味8講座、現代的課題1講座、家庭3講座、親子3講座）の生涯学習講座を開催（計82回、延べ参加者1,750人）。
 - 【夢広場はるひ費】
 - 県教育委員会との連携による朝日遺跡のPR活動及び官民学連携によるイベントを実施。
 - 図書館主催のイベント数：36回（おはなし会、カウンター工作、さがし絵クイズ挑戦状、本のつくりを学び本を大切に育む講座、講演会など）
 - 「広報清須」の特集ページにおいて市立図書館での各種イベントの周知（毎月実施）。
 - 利用者の利便性向上に向けて、アンケートを実施（平成31年3月～平成31年4月）。

IV 事務事業評価

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲としている。

事業名	決算額（千円） [執行率（%）]		活動指標①			活動指標②		
	平成29年度	平成30年度	30目標値	30実績値と達成状況	30目標値	30実績値と達成状況	30目標値	30実績値と達成状況
生涯学習推進費	1,347 [85.2]	1,323 [86.6]	生涯学習講座の講座数（講座）			サタデーキッズクラブの講座数（講座）		
			24	23 ▲	13	13	○	
事業の有効性の評価	市民のニーズを踏まえて、多種多様で質の高い生涯学習講座及びサタデーキッズクラブを開催することにより、市民に充実した生涯学習環境を提供することができる。また、講座を通じて、地域づくりに貢献する人材の育成とともに、子どもの郷土文化に対する理解等を深めることができる。							
事業実施にあたり工夫した点	生涯学習講座及びサタデーキッズクラブの開催にあたっては、近隣市町及び民官の状況に鑑みて、講座の内容を検討することにより、講座の質の向上と事業費の縮減に努めた。							
夢広場はるひ費	135,639 [100.0]	137,697 [100.0]	図書館の蔵書数（冊）			図書館で開催する各種イベントの参加者数（人）		
			145,000	145,998 ○	2,600	5,755 ◎		
事業の有効性の評価	指定管理者の持つノウハウを活用して市立図書館を運営することにより、積極的な情報発信を通じて市民の図書館利用が促進されるとともに、様々な工夫をした企画の実施や蔵書の充実などにより、市民に充実した生涯学習環境を提供することができる。							
事業実施にあたり工夫した点	夢広場はるひ（市立図書館、はるひ美術館、はるひ夢の森公園）について、一括して指定管理者制度を導入していることにより、民間の柔軟なノウハウを生かした事業を展開することができるため、経費の縮減を図りつつ充実したサービスの提供ができています。また、企画展示や魅力あるイベントの開催により利用の増加につながっている。							

V 施策の評価と今後の方向性

- 今後も市民ニーズの変化を的確に捉えて、生涯学習講座のコース設定等に努めていく。「生涯学習人材バンク」の登録者が微増であるが、増加しており、生涯学習を担う地域人材の発掘に取り組み、活用に努めていく。
- 「生涯学習人材バンク」の活用実績は1件あるものの、まだ利用件数が少ないため、生涯学習講座などで講師登録の周知等を行い、「生涯学習人材バンク」の活用を推進する。
- 現在指定管理者（TRC・名古屋三越グループ共同事業体、指定期間：平成27年度～令和元年度）が管理・運営を行っている夢広場はるひ（市立図書館、はるひ美術館、はるひ夢の森公園）について、一括指定のメリットを生かして、各施設が連携して相乗的に事業を展開することにより、今後も市民の生涯学習の充実に努める。なお、令和2年度からの指定管理者については、令和元年度中に仕様書の内容を精査し、選定審議会を開催して決定する。
- 公民館を含む社会教育施設（清洲市民センター、春日公民館、にしびさわやかプラザ等）について、「清須市公共施設等総合管理計画」に基づく公共施設マネジメントの推進とあわせて、民間活力の活用を検討していく必要がある。
- 社会情勢の変化や近隣市町の状況などを踏まえて、生涯学習講座受講料の料金について改定を検討する必要がある。

令和元年度行政評価（平成30年度対象）シート

政策6 豊かなところとからだをはぐくむまちをつくる

施策602 文化・芸術活動の振興

主担当課：生涯学習課

○施策の目指す姿

文化や芸術にふれる機会が充実し、明るく、楽しく、健康で豊かな生活が創造されています。

○施策の展開

- 1 芸術劇場等の開催
- 2 地域の歴史・文化の啓発
- 3 文化・芸術活動を行う団体への支援
- 4 魅力ある美術館づくり
- 5 絵画トリエンナーレの開催

○令和元年度 事務事業評価実施事業（平成30年度対象）

- 1 文化活動費
- 2 文化協会補助金
- 3 夢広場はるひ費
- 4 絵画トリエンナーレ開催費

I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

○施策の関連データ

美術館来館者数（人）※清須市調べ	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	15,163	16,782	15,371	14,264	10,902
トリエンナーレ応募者数（人）※清須市調べ	第5回（平成17年度）	第6回（平成20年度）	第7回（平成23年度）	第8回（平成26年度）	第9回（平成29年度）
	338	390	491	506	637

○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 市民が良質な文化・芸術を鑑賞できる機会を提供するため、「芸術劇場」を毎年開催している。
- 文化・芸術活動を行う各種団体においては、会員の高齢化が進行していることから、若い世代が文化・芸術にふれる機会づくりを積極的に行うことにより、文化・芸術活動を担う若い人材を育てる必要がある。
- はるひ美術館では、全国公募の絵画展「はるひ絵画トリエンナーレ」をこれまでに9回開催し、国内でも広く知られる絵画展となっている。引き続き内容や規模を検討しながら「はるひ絵画トリエンナーレ」を開催し、はるひ美術館の特色を生かして文化・芸術活動の振興を図る必要がある。
- はるひ美術館の収蔵庫の収納能力が限界となっているため、有限なスペースを考えて慎重に収集作品の選定にあたり、必要に応じて収納場所の整備も検討する必要がある。

II 達成度指標の状況

※達成見込については、目標値を上回る見込…◎、目標値を達成見込…○、目標値の達成が難しい見込…▲、現状値を把握していない…ーとして

達成度指標	基準値	前期計画目標値	実績値			目標値の達成見込
			平成28年度	平成29年度	平成30年度	
市民満足度調査における満足度	24.4% (平成28年度)	↑ (平成30年度)	24.4% (平成28年度)	—	23.1% (平成30年度)	▲
美術館の来館者数	16,782人 (平成27年度)	18,000人 (令和元年度)	15,371人 (平成28年度)	14,264人 (平成29年度)	10,902人 (平成30年度)	▲

達成状況の分析

- 美術館の来館者数は、前年度と比較して約24%減と大きく減少している。大きな要因としては、台風21号の影響により雨漏りが発生し、9月から10月にかけて、特別展の会期中から次の企画展まで中止せざるを得なかったことがあげられる。また、展示会は会期の後半に入館が伸びることが多いが、特別展の会期後半がまさに臨時休館となったことに加え、猛暑の影響も少なからずあった。なお、雨漏り修繕のため予定していた企画展を取りやめ、急遽収蔵作品展に切り替えたことにより、周知が難しかったことも来館者数が伸び悩んだ要因としてあげられる。
- 美術館来館者数の目標達成に向けては、展示会開催の周知方法を検討し、集客に努める必要がある。

III 平成30年度の主な取組結果

- 【文化活動費】
- 納涼盆踊り（8月）、カラオケ発表会（9月）、文化展（11月）、芸能発表会（11月）、囲碁・将棋大会（1月）を開催。
- 清洲市民センターで芸術劇場「きよす歴史講談」を開催（10月）（きよす歴史フェアの一環として開催）。
- 【文化協会補助金】
- 清須市文化協会に対する補助を実施（クラブ数96クラブ、会員数1,480人）。
- 【夢広場はるひ費】
- はるひ美術館で特別展・企画展等を開催。
 - ・特別展「元永定正展 おどりだすいろんないるとかたちたちー」
 - ・企画展「清須市第9回はるひ絵画トリエンナーレ」、「清須市はるひ絵画トリエンナーレ アーティストシリーズVol. 87～Vol. 89」
 - ・収蔵作品展「連想ゲーム」、「どこからみる？彫刻・立体作品の魅力」
- 利用者の利便性向上に向けて、アンケートを実施（平成31年3月～平成31年4月）。

IV 事務事業評価

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲としている。

事業名	決算額（千円） [執行率（%）]		活動指標①			活動指標②				
	平成29年度	平成30年度	30目標値	30実績値と達成状況		30目標値	30実績値と達成状況			
文化活動費	5,667 [99.9]	5,168 [99.9]	芸術劇場の観覧者数（人）	300	150	▲	芸能発表会の観覧者数（人）	600	1,000	◎
事業の有効性の評価	芸術劇場や芸能発表会、文化展、納涼盆踊りなど、市民に優れた文化・芸術鑑賞の機会を提供するとともに、各種市民団体の発表の場づくりを行うことにより、市民の文化・芸術活動の振興を図ることができる。									
事業実施にあたり工夫した点	清須市文化協会などの市民団体と協力して事業を実施することにより、効率的・効果的な事業実施に努めた。									
文化協会補助金	3,297 [100.0]	3,108 [100.0]	文化協会の会員数（人）	1,480	1,480	○	文化協会の加盟クラブ数（団体）	100	96	▲
事業の有効性の評価	清須市の芸能文化の発展を積極的に展開する清須市文化協会の活動を支援することにより、市民の自主的な文化・芸術活動を促進することができる。									
事業実施にあたり工夫した点	清須市文化協会の各種活動に係る事業費に対して、補助金交付要綱に基づいて、適正に補助を行った。									
夢広場はるひ費	135,639 [100.0]	137,697 [100.0]	美術館の収蔵点数（点）	200	226	◎	展示会の開催回数（回）	6	5	▲
事業の有効性の評価	指定管理者の持つノウハウを活用してはるひ美術館を運営することにより、積極的な情報発信を通じて市民の美術館利用が促進されるとともに、魅力のある企画展の開催やそれに伴うイベントの実施などにより、市民が良質な芸術を鑑賞できる機会を提供することができる。									
事業実施にあたり工夫した点	夢広場はるひ（市立図書館、はるひ美術館、はるひ夢の森公園）について、一括して指定管理者制度を導入していることにより、民間の柔軟なノウハウを生かした事業を展開することができるため、経費の縮減を図りつつ充実したサービスの提供ができています。しかしながら、台風に伴う雨漏りの影響もあり、来館者数は減少した。									
絵画トリエンナーレ開催費	8,349 [97.8]	3,981 [95.0]	絵画トリエンナーレの応募者数（人）	—	—	—	絵画トリエンナーレの応募点数（点）	—	—	—
事業の有効性の評価	審査体制を一新して、公募展である清須市第9回はるひ絵画トリエンナーレを開催することにより、市民が優れた絵画を鑑賞する機会を提供できる。									
事業実施にあたり工夫した点	展示会会期中に関連企画としてアーティストトークを開催し、市民がより深く、また身近に芸術に触れる機会を提供した。									

V 施策の評価と今後の方向性

- 文化活動の成果の発表機会の充実などにより、文化団体の育成を推進しているものの、文化団体は高齢化が進んでいることから、今後も各種イベントを通じて、若者・子どもを含めた市民が身近に文化・芸術に触れる機会を積極的に提供していく。
- 全国公募の絵画展「はるひ絵画トリエンナーレ」は、美術館の開館当初から市民の文化意識の向上と振興、そして次代を担う有為人材の育成を図ることを目的として開催している。県内に数多ある美術館の中で、はるひ美術館が評価されているのは、展示会企画だけでなく、新進作家の発掘と育成という特徴的な理念を掲げているためであり、また、トリエンナーレの実施により小規模館ながらも美術館の実績・知名度・収蔵作品の量と質を確保してきた側面もあるため、今後も内容を検討しながら、引き続きトリエンナーレを開催していく。
- はるひ美術館では、台風に伴う雨漏りがあり、空調設備も老朽化していることから、計画的に施設・設備の修繕を進める必要がある。

令和元年度行政評価（平成30年度対象）シート

政策6 豊かなところとからだをはぐくむまちをつくる

施策603 文化財保護の推進

主担当課：生涯学習課

○施策の目指す姿

市内に存在する文化財の保存と活用が適切に行われ、地域の歴史・文化が継承・発信されています。

○施策の展開

- 文化財の適切な保護
- 文化財保護の啓発
- 歴史資料の公開・展示
- 指定文化財の修理等への支援
- 朝日遺跡の活用

○令和元年度 事務事業評価実施事業（平成30年度対象）

- 文化財保護事業費
- 歴史資料展示室費
- 指定文化財補助金

I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

○施策の関連データ

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
歴史資料展示室来場者数（人）※ 清須市調べ	15,457	14,998	15,914	16,300	15,772
文化財講演会の参加者数（人）※ 清須市調べ	145	92	44	67	40

○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 毎年開催している文化財講座や文化財講演会においては、一定の参加者があり、地域の文化財や歴史・文化資源に対する関心は高い状況にある。
- 図書館内の歴史資料展示室で、多様な企画展示により、市民が文化財にふれる機会づくりを行っている。
- 高齢化の進行などにより、山車をはじめとする文化財を後世に継承する担い手が不足している。
- 県は、朝日遺跡の価値・魅力の発信や文化活動、地域連携の拠点とするため、平成28年3月に「愛知県清洲貝殻山貝塚資料館拡充整備基本構想」を策定し、令和2年度の資料館リニューアルに向けた取組を進めている。
- 市指定文化財は29件となっている。

II 達成度指標の状況

※達成見込については、目標値を上回る見込…◎、目標値を達成見込…○、目標値の達成が難しい見込…▲、現状値を把握していない…ーとして

達成度指標	基準値	前期計画 目標値	実績値			目標値の 達成見込
			平成28年度	平成29年度	平成30年度	
市民満足度調査における満足度	25.0% (平成28年度)	↑ (平成30年度)	25.0% (平成28年度)	—	23.7% (平成30年度)	▲
歴史資料展示室の来場者数	14,998人 (平成27年度)	20,000人 (令和元年度)	15,914人 (平成28年度)	16,300人 (平成29年度)	15,772人 (平成30年度)	▲

達成状況の分析

- 歴史資料展示室について、平成30年度は、保存処理が終了したこけら経の市指定文化財への指定に関連して、県埋蔵文化財センターと共催で特別企画展「板にこめた想い～こけら経と清洲城下町遺跡～」(9～12月)を開催した。こけら経の実物展示を行うとともに、県埋蔵文化財センターから清洲城下町遺跡出土木簡資料を借用して展示を行い好評であったが、全体を通して見ると来場者数は減少した。これは、猛暑の影響で8月の来場者が前年比で920名減少したことが大きく影響したと考えられる。令和元年度は目標を達成することができるよう、来館者のニーズをつかみ、今後も継続して魅力ある企画展を開催していく。

III 平成30年度の主な取組結果

- 【文化財保護事業費】
- 清洲市民センターで文化財講演会「中世仏教と地域社会～こけら経と生活者の願い～」を開催(12月)。
- 全4回の文化財講座を開催(5月～8月)。
- 出土したこけら経の5か年に渡る保存処理事業が完了したことに伴い、市指定文化財への指定を行い、周知・公開を目的として歴史資料展示室で実物資料を展示した特別展や講演会等を開催。
- 【歴史資料展示室費】
- 歴史資料展示室で「はかる世界～測る・量る・計る～」(4月～8月)、「板にこめた想い～こけら経と清洲城下町遺跡～」(9月～12月)、「箕浦コレクションの世界～御下賜品～」(1～3月)の年間3回の企画展を開催。
- 【指定文化財補助金】
- 市指定文化財に対して、修理4件(問屋町頼朝車・東六軒町泰亨車・西六軒町紅塵車・杵西町頼光車)、管理13件、公開7件(尾張西枇杷島まつり、県民俗芸大会、山車フェス)を対象として補助を実施。

IV 事務事業評価

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲としている。

事業名	決算額(千円) [執行率(%)]		活動指標①			活動指標②				
	平成29年度	平成30年度	30目標値	30実績値と達成状況		30目標値	30実績値と達成状況			
文化財保護事業費	9,351 [97.5]	210 [99.8]	文化財講座の開催回数(回)	4	4	○	文化財講演会の参加者数(人)	150	40	▲
事業の有効性の評価	市内全域に存在する様々な文化財を保護するとともに、文化財講座などの啓発事業を実施することにより、市民が郷土の文化財の素晴らしさを再認識し、地域の歴史や文化に対する理解や文化財保護の意識を高めることができる。									
事業実施にあたり工夫した点	文化財講座や講演会の講師については、県文化財保護室や県埋蔵文化財センターなどの関係機関と連携するなど、効率的な事業実施に努めた。また、平成29年度に保存処理が終了したこけら経を市指定文化財に指定し、文化財講演会や文化財講座、企画展示等に活用して市民へ文化財的価値の周知や公開を行った。									
歴史資料展示室費	1,458 [99.9]	1,451 [100.0]	企画展の開催日数(日)	260	255	▲				
事業の有効性の評価	燻蒸の実施など、適切な保存を行うことにより、歴史資料の劣化を防止することができる。また、歴史資料展示室において企画展を開催し、市民が歴史資料に触れる機会を提供することにより、市民の文化財に対する関心を高め、地域の歴史・文化の継承につなげることができる。									
事業実施にあたり工夫した点	市指定文化財となった寄贈された資料を活用して展示を行うなど、効率的な事業実施に努めた。									
指定文化財補助金	9,327 [97.4]	8,333 [97.1]	指定文化財の修理に対する補助件数(件)	6	4	▲	指定文化財の管理に対する補助件数(件)	18	13	▲
事業の有効性の評価	指定文化財の修理、管理、公開に係る費用に対して補助金を交付することにより、指定文化財を適切な状態で維持することが可能となり、貴重な文化資源の保存・継承が図られ、市の歴史・文化を市内外に発信することができる。									
事業実施にあたり工夫した点	文化財所有者に随時助言・指導を行いながら、補助金交付要綱に基づいて、適正に補助を行った。修理補助に関しては、事前に修理計画書の提出を受けることにより、計画的な修繕に努めている。なお、修理の件数は所有者の修理計画、指定文化財の保存状況によって申請されるものであり、管理補助金は民間所有指定文化財の所有者から市施設への委託等による辞退もある。									

V 施策の評価と今後の方向性

- 文化財講演会・講座ともに受講者に大変好評だったことから、今後も県文化財保護室など他機関と連携して文化財講演会・講座を開催し、郷土の歴史・文化の発信や郷土愛の高揚を図る。
- 今後も、資料の適切な保全を図るとともに、市民に郷土の歴史・文化に触れる機会を提供するため、歴史資料展示室で企画展を開催する。
- 令和2年度に予定されている「あいち朝日遺跡ミュージアム」の開館を、地元として県と一体となって盛り上げるため、県文化財保護室と連携し「プレイベント」の共催や歴史資料展示室での朝日遺跡出土資料を展示する特別企画展の開催など、朝日遺跡の活用や「あいち朝日遺跡ミュージアム」の積極的な周知を図る。

令和元年度行政評価（平成30年度対象）シート

政策6 豊かなところとからだをはぐくむまちをつくる

施策604 スポーツ・レクリエーション活動の振興

主担当課：スポーツ課

○施策の目指す姿

スポーツ・レクリエーションの普及と振興を通じて、健康で豊かな市民生活がはぐくまれています。

○施策の展開

- 1 市民体育祭等の開催
- 2 清須ウオークの実施
- 3 スポーツ活動を行う団体への支援
- 4 総合型地域スポーツクラブの育成
- 5 スポーツ・レクリエーション施設の管理・運営

○令和元年度 事務事業評価実施事業（平成30年度対象）

- 1 清須ウオーク費
- 2 体育協会補助金
- 3 清洲勤労福祉会館費
- 4 新川地域文化広場費

I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

○施策の関連データ

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
アルコ清洲利用者数（人）※清須市調べ	302,817	318,114	300,863	297,121	294,686
カルチバ新川利用者数（人）※清須市調べ	93,382	97,684	101,654	100,443	97,114

○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 2020年に開催予定である東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、スポーツ・レクリエーションへの関心が高まっている中、清須ウオーク、市民体育祭、市民ソフトボール大会、体育協会主催の市民大会などの各種スポーツ事業を展開し、スポーツを通じた市民交流を図る機会を提供していく。
- 市民の自主的なスポーツ活動の促進及びスポーツを楽しむことができる環境づくりの推進にあたっては、総合型地域スポーツクラブ「きよすスポーツクラブ」が大きな役割を果たしている。今後財政面や運営面の支援のあり方を現状に合わせて検討していく必要がある。
- アルコ清洲、カルチバ新川及び春日B&G体育館は、老朽化が進んでおり適正な改修・修繕が必要である。

II 達成度指標の状況

※達成見込については、目標値を上回る見込…◎、目標値を達成見込…○、目標値の達成が難しい見込…▲、現状値を把握していない…ーとしている。

達成度指標	基準値	前期計画目標値	実績値			目標値の達成見込
			平成28年度	平成29年度	平成30年度	
市民満足度調査における満足度	25.7% (平成28年度)	↑ (平成30年度)	25.7% (平成28年度)	—	26.3% (平成30年度)	○
週1回以上スポーツ・レクリエーション活動を行っている市民の割合	23.7% (平成28年度)	↑ (平成30年度)	23.7% (平成28年度)	—	20.0% (平成30年度)	▲
総合型地域スポーツクラブの会員数	340人 (平成27年度末)	450人以上 (令和元年度末)	389人 (平成28年度末)	392人 (平成29年度末)	361人 (平成30年度末)	▲

達成状況の分析

- 市民満足度調査において、週1回以上スポーツを行っている市民の割合が20.0%の低水準であることを受け、関係団体等の協力により、気軽にスポーツを始めることができる環境づくりを推進していく必要がある。
- 総合型地域スポーツクラブ「きよすスポーツクラブ」については、会員数は前年度から減少したものの、会員募集リーフレットの配布やイベントの開催により認知度は高まっていると考えられる。地域スポーツの振興及びクラブの自主運営に向け、引き続き新規入会者を増やす試みに取り組んでいく必要がある。

III 平成30年度の主な取組結果

- 【清須ウオーク費】
年2回（4月・11月）清須ウオークを開催。（参加者：1,454人 [4月：804人 11月：650人]）
- 【清洲勤労福祉会館費】
プール内渡り階段取替工事、ガーデン内側軒天・外側パネル改修工事、プール女子更衣室ロッカー取替工事を実施。
- 【新川地域文化広場費】
2階空調機器取替工事、屋上防水補修工事を実施。
- 【その他】
実行委員会形式により地区（新川・清洲）体育祭を開催。（9月、西枇杷島・春日は悪天候のため中止）
■ きよすスポーツクラブの会員募集、教室の開催等における支援（通年）
■ きよすスポーツクラブ啓発事業として、スプリングフェスティバル（2月）及びビーチボール大会（3月）、障がい者スポーツ大会（3月）を開催。

IV 事務事業評価

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲としている。

事業名	決算額（千円） [執行率（%）]		活動指標①			活動指標②		
	平成29年度	平成30年度	30目標値	30実績値と達成状況	30目標値	30実績値と達成状況	30目標値	30実績値と達成状況
清須ウオーク費	4,613 [97.1]	4,575 [100.0]	清須ウオークの開催回数（回） 2 2 ○			清須ウオークへの協力団体数（団体） 4 6 ◎		
事業の有効性の評価	清須ウオークは、市のイベントとして定着しつつあり、その認知度を活かして、市の魅力を市内外の幅広い年齢層の方に知ってもらうことができ、さらに、健康増進のためにウォーキングの機会を提供することができる。また、スポーツの普及・振興につなげることができる。							
事業実施にあたり工夫した点	協力団体の人材を運営スタッフとして登用し、コース内の要所に配置、また、清須市の魅力発信につなげるコースの見直しをすることで効率的な事業実施に努めた。							
体育協会補助金	6,328 [98.0]	6,029 [100.0]	体育協会の会員数（人） 2,400 2,349 ▲			体育協会の主催大会数（大会） 22 22 ○		
事業の有効性の評価	スポーツの普及・振興活動や健康で豊かな市民生活の育成を展開している清須市体育協会の運営支援を行うことにより、スポーツを通じた快適で魅力のあるまちづくりに寄与することができる。							
事業実施にあたり工夫した点	会員数の減少によって、前年度に比べ補助金額は大幅に減少したが、各種活動に係る事業費に対して、適正に運営支援を行った。							
清洲勤労福祉会館費	126,528 [100.0]	185,185 [99.7]	アルコ清洲の利用者数（人） 330,000 294,686 ▲			指定管理者が行う自主事業数（事業） 67 74 ◎		
事業の有効性の評価	本市で最も利用者の多いスポーツ施設であるアルコ清洲の温水プールについて、指定管理者制度を活用して様々な自主事業などを実施することにより、市民の健康増進・体力向上に寄与するとともに、市民の交流を促進することができる。							
事業実施にあたり工夫した点	指定管理者が有するノウハウを十分に活用して施設管理を行うことにより、コストの削減を図りながら、市民に対するサービス向上を図ることができた。							
新川地域文化広場費	138,344 [100.0]	99,527 [100.0]	カルチバ新川の利用者数（人） 99,000 97,114 ▲			指定管理者が行う自主事業数（事業） 23 21 ▲		
事業の有効性の評価	温水プールやアスレチックジムを有する体育施設であるカルチバ新川について、指定管理者制度を活用して様々な自主事業などを実施することにより、市民の健康増進・体力向上に寄与するとともに、市民の交流を促進することができる。							
事業実施にあたり工夫した点	指定管理者が有するノウハウを十分に活用して施設管理を行うことにより、コストの削減を図りながら、市民に対するサービス向上を図ることができた。							

V 施策の評価と今後の方向性

- 清須ウオークは市のイベントとして定着しつつあり、平成30年度秋には山車保存会の協力を得て、山車蔵の見学コースを設定した。今後も各種市民団体との協働などにより、変化に富んだイベントを企画・検討していく。
- 総合型地域スポーツクラブ「きよすスポーツクラブ」においては、財政面・運営面において早期に自立できるようその努力を促し、クラブの財源状況に見合った助成のあり方を検討していく必要がある。
- アルコ清洲・カルチバ新川については、指定管理者制度により民間経営の発想やノウハウを活かした市民サービスの向上を図ることができている。しかし、春日B&G体育館を含め建物・設備の老朽化が進んでおり、適正で計画的な改修・修繕が必要である。
- 各地区ごとに開催している「市民体育祭」及び地区対抗で行う「市民ソフトボール大会」は、少子高齢化の進展や市民のコミュニティ意識の希薄化に伴って、出場者集めが自治会の負担となっている。年々参加地区が減少傾向にあることから、事業のあり方の検討が必要である。

令和元年度行政評価（平成30年度対象）シート

政策6 豊かなところとからだをはぐくむまちをつくる

施策605 国際交流の振興

主担当課：生涯学習課

○施策の目指す姿

市民参加による国際交流が進展し、子どもから高齢者まで幅広い年齢層において国際理解に対する関心が高まっています。

○施策の展開

- 1 友好姉妹都市との交流
- 2 国際理解の啓発
- 3 中学生の海外への派遣
- 4 国際交流活動を行う団体への支援

○令和元年度 事務事業評価実施事業（平成30年度対象）

- 1 国際交流費
- 2 国際交流協会補助金

I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

○施策の関連データ

在住外国人数（人）※清須市調べ （各年4月1日）	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
	1,287	1,427	1,581	1,657	1,695
国際交流協会補助金	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	350	330	330	330	364

○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 訪日外国人旅行者や外国人労働者が増加する中、国際理解の一層の促進が求められている。
- 本市では、スペイン・ヘレス市との間で、子どもたちによる絵画交換など、友好姉妹都市交流を行ってきたが、現在は交流事業を行っていない状況である。
- 市民の国際理解を深めるため、国際交流を推進する団体と連携して、各種講座やイベントの開催などを通じた啓発を行う必要がある。また、子どもたちが異文化にふれる機会をつくるため、国際交流員による学校での授業や市立保育園・市立幼稚園への派遣を行う必要がある。
- 平成31年4月の改正出入国管理法の施行に伴い、今後の日本語教室のあり方の方向性を検討する必要がある。

II 達成度指標の状況

※達成見込については、目標値を上回る見込…◎、目標値を達成見込…○、目標値の達成が難しい見込…▲、現状値を把握していない…ーとしている。

達成度指標	基準値	前期計画 目標値	実績値			目標値の 達成見込
			平成28年度	平成29年度	平成30年度	
市民満足度調査における満足度	16.7% (平成28年度)	↑ (平成30年度)	16.7% (平成28年度)	—	15.8% (平成30年度)	▲
市や市国際交流協会が実施する国際交流に関する講座・イベント等を知っている市民の割合	27.6% (平成28年度)	↑ (平成30年度)	27.6% (平成28年度)	—	24.7% (平成30年度)	▲

達成状況の分析

- 市国際交流協会主催のイベント参加者に関しては、平成28年度から平成30年度まで徐々に伸びており、市主催の講座についても希望者が多い状況となっているが、市民満足度調査では満足度が減少し、国際交流に関する講座・イベント等を知っている市民の割合も減少している。社会経済情勢の変化に伴って、市民の国際交流に対する関心が今後高まっていくことが予想される中で、取組が市民に浸透していくよう効果的な周知を行う必要がある。

III 平成30年度の主な取組結果

- 【国際交流費】
 - 国際交流員による生涯学習講座での「スペイン語入門」、サタデーキッズクラブでの「国際理解」、「カーニバル」、学校・保育園等での国際理解授業等を実施。
 - 市立中学校の生徒24名と引率教諭4名を海外派遣研修としてオーストラリアへ派遣（8月）。
- 【国際交流協会補助金】
 - 清須市国際交流協会の活動として、食文化講座（6月）、国際理解講座（9月）、外国料理教室（11月）、外国の遊びと日本文化体験（12月）、外国料理の試食や民族舞踊、民族音楽演奏会を鑑賞するインターナショナルパーティー（2月）などを実施。

IV 事務事業評価

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲としている。

事業名	決算額（千円） [執行率（%）]		活動指標①			活動指標②				
	平成29年度	平成30年度	30目標値	30実績値と達成状況		30目標値	30実績値と達成状況			
国際交流費	56 [15.4]	51 [14.0]	学校等における国際理解授業の実施回数（回）	83	87	◎	友好姉妹都市提携に基づくスペイン関連事業の参加者数（人）	75	100	◎
事業の有効性の評価	国際交流員による小学校及び保育園・幼稚園訪問や国際理解講座を実施することにより、市民の国際交流に対する関心を深めることができる。また、スペインのお祭り「カーニバル」を開催することにより、異文化を体験する機会を提供することができる。									
事業実施にあたり工夫した点	友好姉妹都市提携を結んでいるヘレス市があるスペインに関連した各種イベントの実施や、小学生、保育園及び幼稚園児を対象とした国際理解授業の実施などにより、幅広い層の市民の国際理解に対する関心を高めることができた。									
国際交流協会補助金	400 [100.0]	400 [100.0]	国際交流協会の個人会員数（人）	280	279	▲	国際交流協会が主催する講座等の事業数（事業）	7	7	○
事業の有効性の評価	清須市国際交流協会が実施する様々な国際交流事業を通じて、参加者の国際理解が深まることにより、市民レベルでの国際交流の進展を図ることができる。また、語学・交流講座「日本語ひろば」では、外国人を対象とした日本語教室を行っており、日本語習得にとどまらず外国人同士の仲間づくりにも貢献している。									
事業実施にあたり工夫した点	清須市国際交流協会の各種活動に係る事業費に対して、補助金交付要綱に基づいて、適正に補助を行った。									

V 施策の評価と今後の方向性

- 本市ではスペイン・ヘレス市と友好姉妹都市提携を結んでいるが、ヘレス市の諸事情により交流事業ができなため、スペインの文化や祭りなどを紹介する行事の実施により、国際交流の振興を図っている。ヘレス市には情報提供をしてもらうよう機会を捉え働きかけていく。
- 市民レベルでの国際交流活動における中心的な役割を担う清須市国際交流協会について、その活動が活性化されるよう、今後も連携して支援を行う必要がある。
- 国際交流員が市内小学校、保育園・幼稚園での国際理解授業を行い、スペインの生活や文化などを紹介することで、幼い頃からの国際感覚を養うことを図る。
- 中学生の海外への派遣事業については、限られた人数しか派遣事業に参加できないことや、学習指導要領の改訂に伴って、令和2年度から小学校高学年で外国語科が導入されることなどから、事業のあり方を再度検討する必要がある。

令和元年度行政評価（平成30年度対象）シート

政策 6 豊かなところからだをはぐくむまちをつくる 施策 606 男女共同参画社会の推進

主担当課：生涯学習課

○施策の目指す姿

男女共同参画社会の重要性について市民一人ひとりの理解が深まり、社会のあらゆる分野において男女が互いに理解し、個人としての個性と能力を発揮できる環境が整っています。

○施策の展開

- 1 男女共同参画社会の啓発
- 2 推進体制の構築
- 3 女性の社会参加等を推進する団体への支援
- 4 委員会・附属機関等への女性の登用促進
- 5 特定事業主行動計画の推進

○令和元年度 事務事業評価実施事業（平成30年度対象）

- 1 男女共同参画社会推進費

I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

○施策の関連データ

男女共同参画講演会の参加者数（人）※清須市調べ	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	280	320	292	370	147
市の委員会・附属機関等における女性委員の割合（％）※清須市調べ（各年4月1日）	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
	—	30.0	30.2	31.3	33.9

○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 平成31年4月から順次、「働き方改革関連法」が施行されるなど、男女共同参画社会の実現に向けた機運は社会全体で高まりつつある。女性が活躍できる社会、男性が家事に入り込める社会、人権を尊重し合える社会などを実現するためにさらなる啓発に取り組む必要がある。

II 達成度指標の状況

※達成見込については、目標値を上回る見込・・・◎、目標値を達成見込・・・○、目標値の達成が難しい見込・・・▲、現状値を把握していない・・・ととしている。

達成度指標	基準値	前期計画目標値	実績値			目標値の達成見込
			平成28年度	平成29年度	平成30年度	
市民満足度調査における満足度	11.9% (平成28年度)	↑ (平成30年度)	11.9% (平成28年度)	—	13.8% (平成30年度)	○
社会全体で男女が平等であると思う市民の割合	23.9% (平成28年度)	↑ (平成30年度)	23.9% (平成28年度)	—	22.5% (平成30年度)	▲
市の委員会・附属機関等における女性委員の割合	30.0% (平成28年4月1日)	30.0%以上 (令和2年4月1日)	30.2% (平成29年4月1日)	31.3% (平成30年4月1日)	33.9% (平成31年4月1日)	◎

達成状況の分析

- 男女共同参画社会の実現に向け学識経験者、関係団体、市民代表者等と男女共同参画推進懇話会を年2回開催し、その内容を踏まえて市民への啓発を行っている。また、男女共同参画の考え方を市民に周知するために男女共同参画講演会を開催しており、男女共同参画に係る市民の意識を高める取組を引き続き進めていく。
- 職員に対しても、市民に対しても男女共同参画の必要性について周知ができたため、市の委員会・附属機関等における女性委員の割合を30%以上に保つことができた。様々な活動において女性の登用率を高めるため、引き続き取組を進めていく。

III 平成30年度の主な取組結果

【男女共同参画社会推進費】

- 男女共同参画推進懇話会を2回開催し、人事異動に伴う女性管理職の登用率と職員のワークライフバランス、市委員会等の女性登用率や各課の取組状況などを洗い出し、男女共同参画の今後の進め方などを協議。
- 清洲市民センターにおいて、男女共同参画講演会を開催（10月、講師：国崎 信江（危機管理教育研究所代表）、演題：「男性にも知ってもらいたい！！ 女性の視点で考える防災」）
- 清須市女性の会の活動として、女性の文化教養を高めるための事業や、社会の福祉に貢献する事業に対する協力、各種ボランティア活動、結婚相談所の開設、健康教室などを実施。

IV 事務事業評価

※達成状況については、目標値を上回る・・・◎、目標値を達成・・・○、目標値を下回る・・・▲としている。

事業名	決算額（千円） [執行率（％）]		活動指標①			活動指標②		
	平成29年度	平成30年度	30目標値	30実績値と達成状況		30目標値	30実績値と達成状況	
男女共同参画社会推進費	305 [90.1]	272 [80.3]	男女共同参画講演会の参加者数（人） 350	147	▲	男女共同参画推進懇話会の開催回数（回） 2	2	○
事業の有効性の評価	男女共同参画社会の実現に向けて、男女共同参画講演会の実施などによる啓発を図ることにより、市民の認識を深めることができる。また、男女共同参画推進懇話会を開催することにより、今後の事業展開について、有識者等からの意見を踏まえた改善を図ることができる。							
事業実施にあたり工夫した点	事業の実施にあたっては、清須市男女共同参画えみの会など関係団体と協力しながら取組を進めることにより、効率的・効果的な事業実施に努めた。							

V 施策の評価と今後の方向性

- 男女が互いにその人権を尊重しつつ、責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会の実現に向けて、様々な機会を通じて市民の男女共同参画に対する意識の向上を図る。
- 国の施策の方向性の中でも女性活躍についての施策が積極的に進められており、男女共同参画社会の実現に向けた取組の重要性が高まっている中で、様々な活動において女性の登用率を高めるなど、市としても引き続き「男女共同参画懇話会」における議論の内容を踏まえて、施策の目指す姿の実現に向けた取組を進める。
- 現在の男女共同参画プランが令和3年度に終期を迎えることから、現在のプランに基づく事業の評価を行った上で、次期プランの内容を検討していく。